

ウロコ雲天高くはかなく

いろはつぶり

ウロコ雲は、形が魚の鱗うろこに似ていることから鯖雲や鰯雲などと呼ばれるが、それぞれ mackerel cloud・(鯖雲)、sardine cloud (鰯雲) と世界共通だ。魚市場で鯖の鱗を接写したことがあるが、実際の雲も魚の写真と見間違っほぼとっくりだった。

雲は現れる高さで、下層雲、中層雲、上層雲に分けられる。ウロコ雲は空の高い位置に現れる雲の仲間。国際的な雲の分類では「巻積雲」と呼ばれている。雲はすべて微細な氷の結晶でできていて、非常に透明感があり、また薄く見える。このほか、はけで掃いたような巻雲なども同じ雲の仲間で、1万メートル上空でみられる。

さて、ウロコ雲はどうしてあのように細かく割れ、また同じような大きさに

古川 武彦 元気象庁予報課長

なのか。熱いみそ汁の表面を思い出してほしい。幾つかの塊に割れ、中央付近で湧き上がり、塊の縁で沈んでいる。これは汁の表面は空気で冷やされるが、その下はいまだ熱いので、上下運動の対流が起きているからだ。

ウロコ雲も、雲の上面は放射冷却で冷やされるが、下面は地表からの熱でそれほど冷えないので、みそ汁と同じ理屈で対流が起きる。一般に水や油、空気などの上面を冷やし下面を暖めると、一様には上昇せず、このような対流が起きやすい。塊の大きさは流体の粘性と上下の温度差に依存する。

秋の空を彩るウロコ雲も長くは続かず、いつの間にか消滅することが多い。「女心と秋の空」は、この美しくも移ろいやすいウロコ雲の儚はかなさに、男の想いを重ねた恨み節だろうか。雲の形や高さは、低気圧の接近など、天気予報作業にとって重要な情報だが、観測は目視に頼っている。